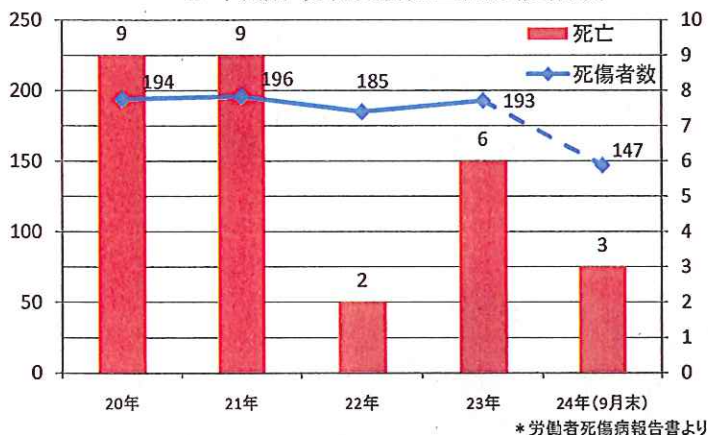


建設業における労働災害を防止しましょう！

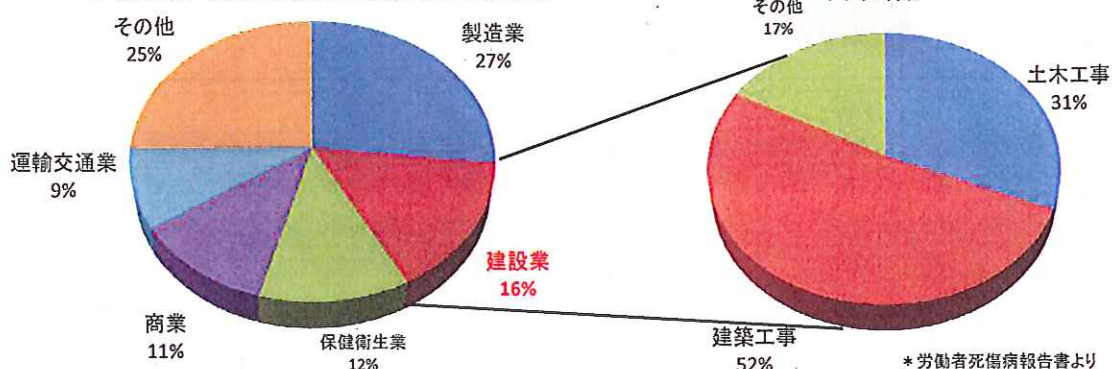
1. 年次別・労働災害発生状況(建設業)



長崎労働局作成(平成24年9月)

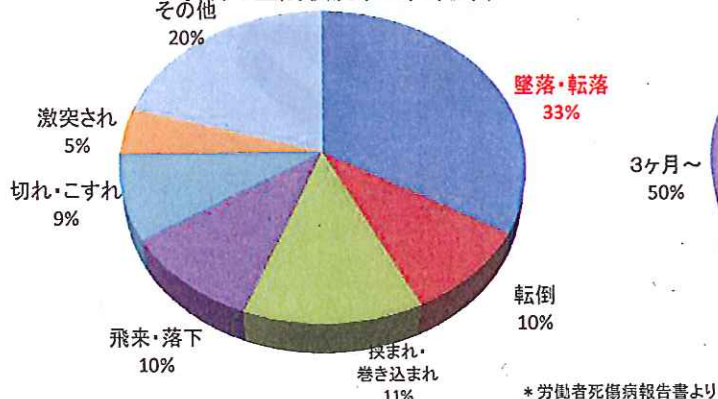
○建設業における労働災害発生状況をみると、平成20年以降200件弱で推移しています。
○今年も9月末現在で147件発生しており、昨年同期(136件)より増加しています。
○死亡災害も現在**3件**発生しており、非常に憂慮すべき状況です。

2. 業種別・労働災害発生状況(24年9月末)

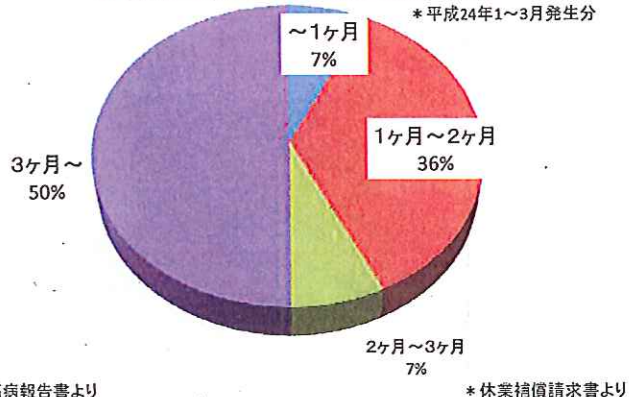


○平成24年の休業4日以上労働災害は9月末現在で945件(うち死亡災害7件)発生しており、このうち建設業は全業種の16%を占めています。
○これを工事別でみると、高所作業を伴う建築物工事の割合が高く、**約50%**を占めています。

3. 事故の型別状況(24年9月末)



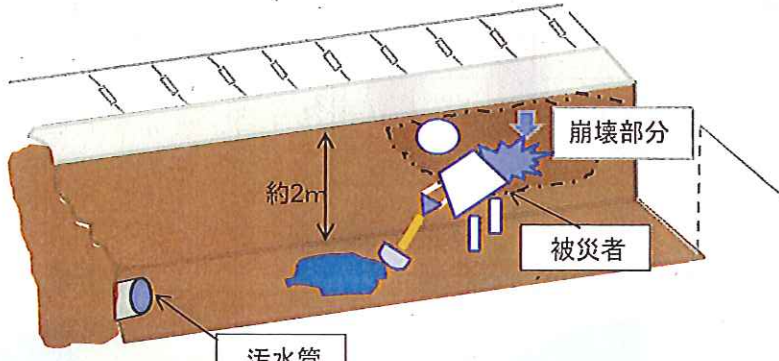
4. 休業日数別状況(墜落・転落災害)

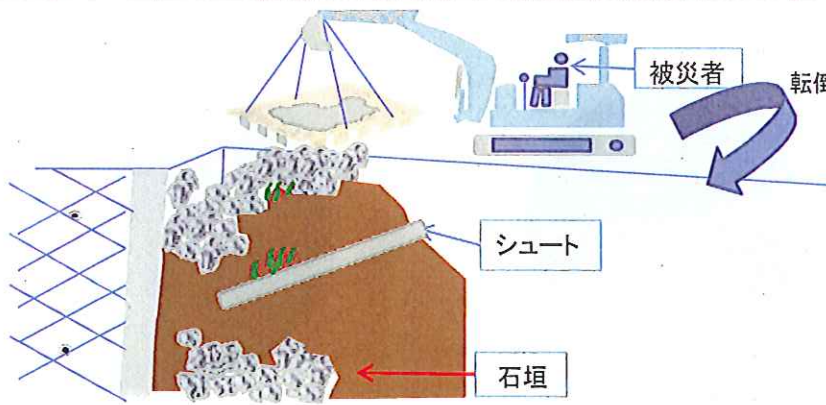


○平成24年の建設業における事故の型別をみると、「墜落・転落」災害が全体の3割と多発しています。
○24年1～3月に発生した墜落・転落災害を休業日数で調べてみると3ヶ月以上が半数を占め、**平均休業日数も98日間**と、ひとたび労働災害が発生すると長期化する傾向にあります。

長崎労働局・各労働基準監督署

〈死亡災害事例〉

番号	発生年月	職種等	発生状況の概要(死亡災害)	業種 起因物 事故の型
1	24.3	男 作業員	汚水管の布設のため、ドラグ・ショベルにて高さ約2m前後の明かり掘削を行った後、被災者が掘削箇所に入り、作業を行っていたところ、背にしていた地山の法面が崩れ、土砂に埋まったもの。	土木工事 地山 崩壊、倒壊
				
原因			対策	
① 掘削深さが約2mで法面の勾配が90度であるにもかかわらず、土止め支保工を設けていなかったこと。 ② 地山の掘削作業主任者、土止め支保作業主任者が地山崩壊防止のための適切な作業方法、手順を決定していなかった。			① 地山の崩壊等により労働者に危険を及ぼすおそれがあるときは、土止め支保工を設置の上、作業させること。 ② 左記作業主任者の職務である地山の崩壊防止のため、適切な作業方法を決定し、指揮すること。	

番号	発生年月	職種等	発生状況の概要(死亡災害)	業種 起因物 事故の型
2	24.3	男 作業員	被災者は、ドラグ・ショベルを運転し、バケットのフックにワイヤロープを掛けて、生コンを乗せた木製パレット(98cm×180cm)を吊り上げていたとき、同機械が転倒し、被災者はその下敷きとなったもの。	土木工事 掘削用機械 転倒
				
原因			対策	
① 移動式クレーン仕様でないドラグ・ショベルのバケットのフックにワイヤーを掛けて、荷を吊り上げたこと。 ② 作業計画(作業手順)がないまま、作業を行ったこと。			① ドラグ・ショベルについて、主たる用途以外で使用しないこと。 ② 石垣の製作等について、作業手順を作成し、関係労働者へ周知すること。	

基本的な建設業の労働災害防止対策は下記URLを参照下さい。
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzenisei15/index.html>